

# 経済・金融 フラッシュ

## 小売業は前年比▲2.3%の大幅悪化 ～商業販売統計 11年11月

経済調査部門 研究員 桑島 滋

TEL:03-3512-1838 E-mail: kuwahata@nli-research.co.jp

### 1. 小売業は前年比▲2.3%の大幅悪化

12月28日に経済産業省から公表された11年11月の商業販売統計速報によると、小売業販売額は前年比▲2.3%の10兆9400億円と、10月の同1.9%から減少に転じた。季節調整済前月比でも▲2.1%の減少となった。

物価変動の影響を除いた実質値（当研究所試算値）では前年比▲0.7%の減少となった。

業種別では、自動車小売業が前年

比19.7%と、前月（同22.8%）に続き大幅増加となったが、機械器具小売業が、薄型テレビの駆け込み需要の反動に加え、昨年11月には翌月からのエコポイント半減を前にした駆け込み需要があったこともあり、前年比▲51.8%の大幅減少となった。その他では織物・衣服・身の回り品小売業が前年比2.4%の増加となるなど、8業種中5業種で増加した。

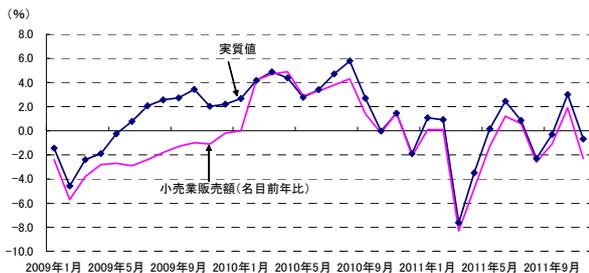
寄与度別では、自動車小売業が1.9%ポイント、織物・衣服・身の回り品小売業が0.2%ポイント販売額を押し上げたものの、機械器具小売業が▲4.4%ポイントと、販売額を大きく押し下げた。

小売業及びコンビニエンスストア販売額(増減率)

	小売業								コンビニエンスストア販売額	
	前月比	前年比	大型小売店				スーパー		前年比(既存店)	前年比(既存店)
			前年比	前年比(既存店)	百貨店	スーパー				
10年9月	▲2.8	1.4	▲1.0	▲1.7	▲6.4	▲5.0	1.8	0.1	15.1	12.2
10月	▲1.4	▲0.2	1.2	0.4	▲0.5	0.6	2.3	0.3	▲3.3	▲6.0
11月	2.0	1.5	0.5	0.1	▲1.5	▲0.4	1.8	0.5	3.4	0.7
12月	▲4.2	▲2.1	▲1.6	▲1.7	▲2.6	▲1.5	▲0.7	▲1.8	5.4	2.8
11年1月	4.0	0.1	▲0.6	▲0.7	▲3.0	▲1.1	0.9	▲0.4	7.1	4.5
2月	0.8	0.1	1.0	0.5	▲1.1	0.6	2.1	0.4	8.5	5.9
3月	▲7.6	▲8.3	▲6.5	▲7.5	▲15.4	▲15.0	▲1.2	▲3.0	9.1	7.2
4月	4.1	▲4.8	▲0.9	▲1.9	▲2.4	▲1.8	▲0.1	▲1.9	3.0	1.0
5月	2.4	▲1.3	▲1.3	▲2.5	▲2.4	▲2.6	▲0.8	▲2.4	7.3	5.1
6月	2.9	1.2	0.4	▲0.5	▲0.3	0.1	0.8	▲0.8	10.9	8.3
7月	▲0.3	0.6	1.8	0.8	▲0.2	▲0.4	3.1	1.5	11.4	8.9
8月	▲1.7	▲2.6	▲1.8	▲2.6	▲2.4	▲2.1	▲1.5	▲2.9	9.1	6.6
9月	▲1.4	▲1.1	▲2.4	▲3.6	▲2.6	▲2.8	▲2.4	▲4.0	▲1.8	▲4.1
10月	1.4	1.9	▲0.5	▲1.4	▲0.8	▲0.8	▲0.3	▲1.7	16.4	13.5
11月	▲2.1	▲2.3	▲1.6	▲2.5	▲2.2	▲2.2	▲1.2	▲2.7	10.5	7.3

(資料)経済産業省「商業販売統計」

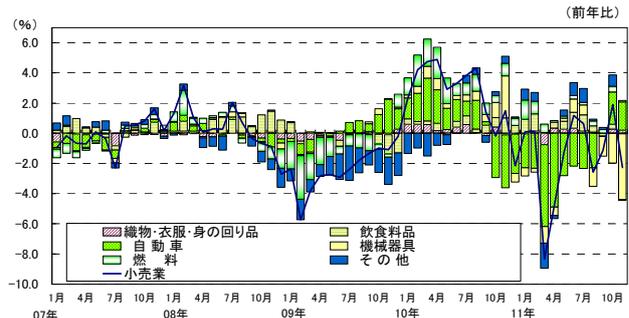
小売販売額の推移



(資料)経済産業省「商業販売統計」

(注)実質値については、消費者物価指数(「財」から「電気・都市ガス・水道」を除いたもの)により実質化

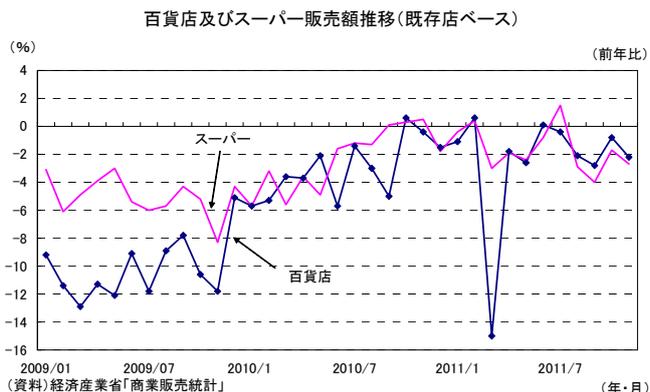
小売業販売額(業種別寄与度)



(資料)経済産業省「商業販売統計」

## 2. 百貨店、スーパーともに10月から減少幅が拡大

11年11月の大型小売店販売額（百貨店とスーパーの合計）は、前年比▲2.5%と、4ヵ月連続の減少となった。業態別では百貨店が前年比▲2.2%、スーパーが同▲2.7%と、ともに前月から減少幅が拡大した。

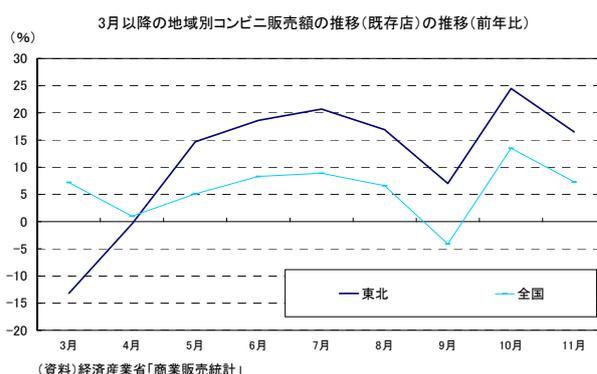
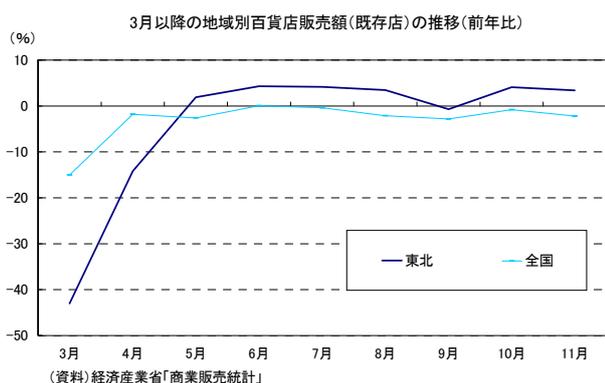


百貨店販売額（既存店）を商品別にみると、紳士服・洋品が前年比▲3.6%（10月：同▲0.0%）と減少幅が拡大したことに加え、婦人・子供服・洋品が前年比▲2.4%（10月：同0.8%）と減少に転じたことなどから、売上高の約4割を占める衣料品全体では、前年比▲2.6%（10月：同0.1%）と、減少に転じた。また、飲食料品が前年比▲0.9%（10月：同▲0.6%）と、減少幅が拡大したことなどから、百貨店販売額全体では減少幅が拡大した。

コンビニエンスストア販売額（商品販売額及びサービス売上高）は7314億円、前年比10.5%（全店ベース）と、10月（同16.4%）に続いて大幅増加となった。

商品別では、非食品が前年比25.0%（10月：同48.3%）と、増加幅が縮小したものの、引き続き好調を維持している。なお、10、11月の非食品が非常に高い伸びとなった要因は、昨年の同時期が、たばこ値上げ直前の駆け込み需要が見られた反動から前年比で減少となっていたことも影響している。一方、加工食品は前年比1.8%（10月：同2.7%）、ファーストフード及び日配食品は前年比4.3%（10月：同4.9%）となり、ともに増加幅が縮小した。

地域別の動きを見ると、百貨店販売額、コンビニ販売額ともに東北地方で全国を大きく上回る伸びが続いている。



11月の小売業は非常に弱い動きとなった。先行きについても海外経済の減速などを背景として国内景気の減速懸念が強まる中、雇用・所得環境の厳しい状況が続くことが予想されることから弱い動きが続くものと考えられる。